

朝日新聞への投稿

辺野古新基地建設の大きな岐路が近づいている。沖縄戦の遺骨・遺品が眠る沖縄島南部の土砂採取を、業者が県に申請しており、4月16日の期限までにどのような命令を出すか注目が集まっている。沖縄防衛局の工事計画では、土砂使用予定量の約7割を沖縄島南部で賄うとしており、県が公園法などを根拠に拒否すれば、埋め立て工事は頓挫する。

遺骨収集ボランティアの具志堅隆松さんらが、沖縄県庁前で3月上旬ハnstを実施し、多くの県民の支持を得た。その影響もあり、本来基地建設を容認している自公の県議らは、南部地区の遺骨混入の土砂について、県民感情に深く配慮するように、と表明した。県内の多くの市町村議会が、同様の内容の意見書を可決し、全県的な話題となっている。

3月26日、土砂を搬出する名護市安和棧橋で、ダンプと一般車との交通事故があった。強引な右折で国道に進入したダンプに気付くのが遅れ、乗用車の前部が大破した。昼間なら避けられたと思うが、発生時刻は午後7時20分過ぎで真っ暗だった。

午前7時から午後8時までの13時間作業が連日続いており、約100台のダンプのほぼ半数が、13時間稼働している。実現不可能な工事は即刻中止すべきである。